

1章

エベロンの成り立ち



神話から歴史へ

3柱の始祖竜

世の曙の頃、シベイ、エベロン、カイバーの3柱の始祖竜が13の次元界を創り上げ、最後に物質界を創った。残忍なカイバーは物質界を独占しようとしてシベイをバラバラに引き裂いた。

エベロンはカイバーを自らの身体で縛り上げたが打ち負かすには至らず、自分自身を生きた牢獄、すなわちカイバーの邪悪を永遠に封じ込める「世界」へと変えた。世界、つまりこの惑星はエベロンとなった。

カイバーは地下世界アンダーダークとなり、異形とフィンドの源となった。

バラバラになったシベイはこの惑星を取り囲む金色のドラゴンシャードの環となった。

これがこの世界に伝わる創世神話である。

オーヴァーロード

はるかな昔、この世はカイバーから生まれたオーヴァーロードと呼ばれる強大なアーチフィンドが支配していた。

オーヴァーロードたちはやがて光の勢力——ソヴリン・ホストの9柱の神々とも、ドラゴンとセレスチャルの連合軍ともいわれる——によって打ち負かされる。

しかし完全に滅ぼすことは不可能だったため、彼らの不滅の霊的実体はカイバーに封印された。

これをなしたのは、ほぼ全てのコアトルたちの自己犠牲によるものとされる。コアトルたちは自らの身体を銀の炎に変え、フィンドたちを縛り上げたのだ。

文明

それから幾千幾万の歳月の中で、多くの文明が興り、滅びていった。

ゼンドリック大陸に巨人たちが築いた偉大なる文明は、アルゴネッセン大陸のドラゴンとの戦争で跡形もなく消え去った。

ゴブリノイドのダカーン帝国はコーヴェア大陸を支配していたが、狂気の領域ゾリアットからの侵寇によって滅ぼされた。

ヒューマンは、およそ3000年前にサーロナ大陸からコーヴェア大陸に移り住むようになった。

約1000年前、ヒューマンの英雄ガリファーがコーヴェア大陸を統一し、ガリファー王国を打ち立てる。

人類の時代

ドラゴンマーク

コーヴェア大陸で人々が歴史を築き始めた頃、人型種族たちの間で「ドラゴンマーク」と呼ばれる紋章状のアザを持つ血族が現れ始める。

ドラゴンマークを持つ者は、その種別によって特異な能力を発揮することができ、やがてそれぞれのマークを持つ一族は「氏族」を形成する。

失われた「死」のマーク、ヴォルを除いた12（チュラーニ氏族は最終戦争中にフィアラン氏族から分離独立した）のドラゴンマーク氏族は、それぞれの分野で権益を確保し、経済を動かす存在へと巨大化していった。

ドラゴンマーク氏族

マーク	氏族	種族
嵐のマーク	リランダー	ハーフエルフ
移動のマーク	オリエン	ヒューマン
影のマーク	フィアラン、チュラーニ	エルフ
監視のマーク	クンダラク	ドワーフ
歓待のマーク	ガラнда	ハーフリング
刻印のマーク	シヴィス	ノーム
創造のマーク	カニス	ヒューマン
探知のマーク	メダーニ	ハーフエルフ
治癒のマーク	ジョラスコ	ハーフリング
調教のマーク	ヴァタリス	ヒューマン
発見のマーク	タラシュク	ヒューマン、ハーフオーク
歩哨のマーク	デニス	ヒューマン

特異型ドラゴンマーク：危険な力を発揮する謎多きマーク

最終戦争と”悲嘆の日”

時は流れ、王国歴894年。

当時のガリファー王ジャロットの死後、王位継承をかけ、アンデール、ブレランド、サイアリ、カルナス、スレインの5つの国に分裂して熾烈な戦争が起こった。

およそ100年間続いた戦争は、王国歴994年に発生した未曾有の大災害、”悲嘆の日（デイ・オヴ・モーニング）”によって終結を見た。

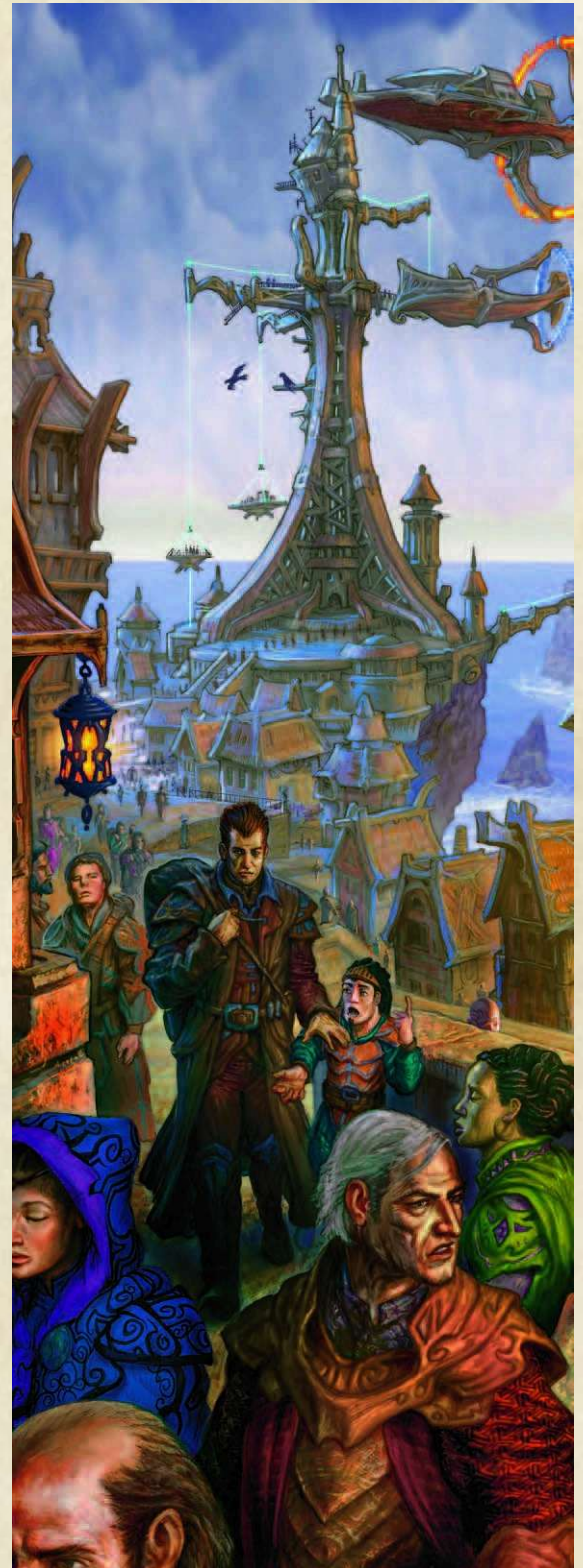
悲嘆とは、サイアリに突如、灰色の霧（デッドグレイ・ミスト）が沸き起こり、サイアリの国土を包み込み、その地に住んでいた100万もの人々を帰らぬものとした原因不明の天変地異である。

灰色の霧はいまだにサイアリの地に不気味に留まったままであり、その内部はモーンランドと呼ばれるようになった。

悲嘆の日から2年後、王国歴996年にはスローンホールド条約が結ばれ、戦争は終わった。

しかし5つの国は次の戦争に備えて水面下でしのぎを削りあい、モーンランドとなったサイアリの難民は塗炭の苦しみにあえぎ、人々はいつ破れるとも知れないかりそめの平和の中で生きていた。

そして王国歴998年——ここから先に何が起こるかは、君たちの選択次第だ。



エベロンの住人

ウォーフォージド

最終戦争で戦うために造られた”生ける人造”。最初のウォーフォージドは、カニス氏族のメリックス・ド＝カニスとその息子アーレン・ド＝カニスによって創造された。初めは心なき自動人形に過ぎなかったが、カニス氏族はその改良に莫大なりソースをつぎ込んだ。結果、知性も、痛みを感じることも、心や魂と呼べるものさえも獲得した彼らは新たな種族として受け入れられた（一部の者は嫌々ながら認めた）。

スローンホールド条約により、ウォーフォージドは新たに生産することを禁じられた——少なくとも表向きは。

生ける鋼と石

ウォーフォージドの体は有機材料と無機材料の組み合わせだ。ウォーフォージドの筋肉は木の根のような繊維に錬金術的な液体を染み込ませたものであり、それが鋼やダークウッドや石の骨組みに巻き付いている。外殻は装甲板で守られ、関節も装甲板で補強される。ウォーフォージドの顔のデザインはどれも似ていて、蝶番で動く顎とクリスタルの両目の上に盛り上がった堅固な眉弓がある。頭部にはドワーフ語で”真実”を意味する”グルラ”と呼ばれる刻印があり、これは個体ごとに異なる指紋のようなものだ。

ウォーフォージドは人工的に作られた存在ではあるが、れっきとした人型生物だ。休憩や治癒魔法や〈医術〉技能は、他の人型生物に与えるのとまったく同じ利益をウォーフォージドにも与える。

ウォーフォージドの人格

ウォーフォージドは命令に従って戦うために作られた。ウォーフォージドはこれまでの”人生”のほとんどを、明確に定義された職務を命じられ、その職務に専念するように言われて過ごしてきた。彼らはスローンホールド条約によって自由を獲得したが、多くのウォーフォージドは戦後の世界で自分の居場所が見つからず、自分を造ったクリーチャーとの関係も曖昧なまま、苦労の日々を過ごしている。

ウォーフォージドは感情をほとんど表さないのが普通だ。多くの者は1つの具体的な目的を——味方の護衛、契約の遂行、土地の探検などを——思い定め、戦争に取り組んでいたときと同様の姿勢で今の仕事に取り組む。その一方で、自分の感情、自分の自由、自分と他者との関係といったものを探ることに大きな喜びを覚えるウォーフォージドもいる。ほとんどのウォーフォージドは宗教に無関心だが、崇高な目的や深い意味を求めて信仰や神秘主義を受け入れる者もいる。

ウォーフォージドの体は性別を感じさせない形状なのが普通だ。ウォーフォージドの中には性別という概念を完全に無視している者もいれば、自分で自分の性別を決めた者もいる。

ウォーフォージドは個性が豊かになればなるほど、自分の体をカスタマイズしたい気持ちが強くなり、ア

ーティフィサーを見つけて自分の顔や手足や装甲板の見た目を変えてもらおうとする。

ウォーフォージドは以下の種族的特徴を有する。

■**能力値上昇**：【耐久力】が+2、君が選んだ他の能力値が+1。

■**年齢**：一般的なウォーフォージドは2～30歳の間だ。寿命は謎に包まれている。ウォーフォージドは魔法的な加齢の影響を受けない。

■**属性**：秩序にして中立の傾向があるが、周囲の人型種族から善悪を学習した者もいる。

■**体格**：中型。

■**移動速度**：30ft（9m）

■**ウォーフォージドの堅牢性**：君は鋼や石で作られた。そのため、

- ・毒状態に対するセーブに有利を得る。また、毒ダメージに対する抵抗を有する。
- ・飲食と呼吸が不要。
- ・病気にならない。
- ・睡眠を必要とせず、魔法によって眠らされることもない。

■**哨兵の休息**：君が大休憩を取る際には、少なくとも6時間の間じっと動かずにいる必要がある。

■**組み込み式装甲**：君の体には装甲が組み込まれており、鎧によってさらに装甲を厚くすることができる。そのため、

- ・ACに+1ボーナスを得る。
 - ・君は習熟していない鎧をつけることができない。
- 鎧をつける際、君は1時間かけて鎧と体を一体化させる必要があり、外すにも1時間かかる。君は鎧のつけ外しを行いながら休憩を取ることができる。
- ・君が生きている限り、君の意に反して君の体から鎧を外すことはできない。

■**専門家設計**：1種類の技能と1種類の道具を選び、それらに習熟する。

■**言語**：共通語に加えて君が選んだ1種類の言語の会話と読み書きができる。